

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）	目標等の公表先
082163_笠間市	③学校と家庭の課題	家庭等における学習習慣の定着	学校以外で学習を行う習慣がない児童が増えていること、家庭での学習習慣を身につけさせたいと願う保護者が多いことから、学校外での学習機会の確保が課題となっている。	市内3公民館において、毎週土曜日の午前中3時間、学習教室を開設（寺子屋事業）	・引き続き寺子屋事業を活用して、教員経験者並びに教育学部等の学生を学習支援員として配置し、児童に対して授業の復習を中心とした全体指導及び個別指導を行う。	学校以外の時間に、定期的・継続的な学習を行うことで、学習習慣を定着させ、学習意欲の向上へつなげるとともに、基礎学力の向上を図る。	学校が休みの日に1日当たり2時間以上、勉強する児童の割合（全国学力・学習状況調査より）	42.9	%	44	50.4	04 本年度の目標値を上回り、課題の解決に向けて大きな成果が見られた。 ・寺子屋に通う児童の保護者に対する調査によると、寺子屋事業により学力が伸びたと回答した保護者は、81.7%であった。 ・寺子屋に通う児童に対するアンケートによると、寺子屋に通うことで学習習慣が定着したと回答した児童は、92.9%であった。	https://www.city.kasama.lg.jp/page/page007761.html

※行が足りない場合は、非表示になっている行を再表示してください。